

平成30年度 教職員の自己評価集計結果とその考察

藤認定こども園
藤幼稚園・藤保育園

A：よく出来ている、 B：まあまあ出来ている、 C：あまり出来ていない、 D：出来ていない

I 保育の計画性

		A 評価	B 評価	C 評価	D 評価
園の教育方針等の理解	園の教育方針や教育目標を理解する	15.6%	84.4%	0%	0%
教育課程の編成	園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	9.5%	76.2%	14.3%	0%
指導計画の作成	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	5.3%	84.2%	10.5%	0%
環境の構成	幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	8.7%	78.3%	13.0%	0%
	幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間の構成をする	4.2%	79.2%	16.6%	0%
	楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	20.0%	68.0%	12.0%	0%
	幼児の発達や生活を見通した環境の構成をする	8.3%	66.7%	25.0%	0%
評価・反省	自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かす	3.3%	83.4%	13.3%	0%

「**園の教育方針等の理解**」の項目では、「よく出来ている」（以下、「A評価」という。）と「まあまあ出来ている」（以下、「B評価」という。）「あまり出来ていない」（以下、「C評価」という。）「出来ていない」（以下、「D評価」という。）のうち、全員が「B評価」以上となった。引き続き、「A評価」の割合を高めていけるよう努力を重ねていく。

「**教育課程の編成**」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて85.7%、「**指導計画の作成**」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて89.5%となったが、全ての教職員が平成30年度から改訂された教育保育要領の内容をしっかりと把握し、保育の計画を立て具体的に指導計画を作成していけるよう職員への指導・支援体制をしっかりと行っていく必要がある。

「**環境の構成**」の項目では、幼児の主体性や発達を考慮して保育環境を構成していると自己評価した者は「A評価」と「B評価」を合わせてその平均は83.4%で、「C評価」と自己評価した者が平均16.7%おり、特に幼児の発達や生活を見通した環境の構成についての評価が低い。幼児の発達と園内での一日の生活を見通した中で、どのように環境を構成するのか、研究を重ね「A評価」「B評価」を目指してしっかり努力していく必要がある。

「**評価・反省**」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて86.7%で、「C評価」と自己評価した者が13.3%となった。全ての教職員が日常から自らの保育を評価・反省し、次の保育に生かすことを意識し改善に努めるよう指導し

ていかなければならない。

II 保育のあり方、幼児への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
健康と安全への配慮	園内に危険な個所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される時は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	12.5%	84.4%	3.1%	0%
	園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	27.3%	69.7%	3.0%	0%
幼児理解	個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	6.3%	78.1%	15.6%	0%
	幼児同士の関わりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	10.0%	80.0%	10.0%	0%
	幼児の理解のために家庭との連携をとる	18.5%	70.4%	11.1%	0%
指導との関わり	幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	32.3%	61.1%	6.5%	0%
	幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	40.6%	56.3%	3.1%	0%
	幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	15.6%	78.1%	6.3%	0%
	幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	19.4%	80.6%	0%	0%
保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がける	25.0%	75.0%	0%	0%
	幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解を図る	19.4%	67.7%	12.9%	0%

「健康と安全への配慮」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均97%であり、前年と同じく「健康と安全への取組」は職員の意識にもかなり浸透していることが窺える。今後も、より園内の清掃や整理整頓は徹底していきたい。

「指導との関わり」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均96%であり、幼児への関わりを重視しながら保育に当たっていることが窺える。一方、「幼児理解」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均87.8%であった。教職員は幼児理解の重要性を感じて努力しているものと思われるが、担任以外の担当者に「C評価」が集中していることから、全ての教職員が共に考え理解していけるよう研修の機会を通して改善していかなければならない。

「保育者同士の協力・連携」の項目では、「クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がけているか」の問いは、「A評価」と「B評価」を合わせて100%となった。「幼児について保育者同士で話し合い、共通理解を図っているか」の問いには「A評価」と「B評価」を合わせて87.1%であった。幼児について教職員全体で協力・連携することの大切さは理解しながらも、共通理解を図ることの難しさを感じた一年であったことが

窺える。保育者同士の共通理解をを改善するため、日常のコミュニケーションを心がけるとともに会議の場での意見交換を活発に行っていきたい。

Ⅲ 保護者への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
情報の発信と受信	保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	29.6%	70.4%	0%	0%
対応上の心がまえ	保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	27.6%	72.4%	0%	0%
要望等への処理の仕方	要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する	13.8%	82.8%	3.4%	0%

「情報の発信と受信」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて100%であり、保護者からの相談や要望にはよく話を聞くよう心がけていると思われる。また、「対応上の心がまえ」の項目でも、「A評価」と「B評価」を合わせて100%となった。保護者からの依頼や伝言にはきちんと対応するように心がけていることが窺える。

「要望等への処理の仕方」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて100%とならなかったものの、教職員全体で検討し共通理解しようとしていることが窺える。全体で検討したことを、全ての教職員が共通理解できるよう伝達手段を見直すとともに、今後は「A評価」の割合を高めていけるよう心掛けていかなければならない。

Ⅳ 地域や自然や社会との関わり

		A評価	B評価	C評価	D評価
地域・自然・人々との関わり	地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	0%	85.7%	14.3%	0%
小学校との連携	地域の小学校の行事や公開授業に参加するよう努める	6.6%	26.7%	26.7%	40.0%
子育て支援と地域への開放	子育ての支援や地域への開放に努めている	6.3%	50.0%	18.7%	25.0%

「地域・自然・人々との関わり」の項目では、昨年は「B評価」60%、「C評価」と「D評価」を合わせて40%であったところから、本年は「B評価」85.7%となった。一昨年までは、園外へ出掛けることの有無が評価の基準になっていることが伺えたため、地域・自然・人々との関わりについて身近なところから意識を高めてきた。地域の方や保護者の方に、ボランティアに来ていただき一緒に活動したことが、「B評価」の割合が上昇したことに繋がったと窺える。今後は、「A評価」をつけることができるよう、地域・自然・人々と関わる機会をさらに増やしていきたい。

「小学校との連携」の項目では、担当学年によって参加する機会が左右されるため、これまで「C評価」・「D評価」と答えた者が合わせて65%程度となっていたが、本年も概ね同様であった。幼少の連携については、小学校教諭との意見交換や合同の研究の機会を設けて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図ることが教育保育要領で求められている。まずは、意見交換の機会を設定できるよう地域の小学校と相談していきたい。

「子育て支援と地域への開放」の項目では、これまでも実施している年間6回の“園庭開放”に加えて、本年度から

“くまのみクラブ”を新たに始め、地域の未就園児親子が集まれる場を設定したものの、子育て支援や地域への園開放に携わる教職員は特定のものに限られているため、昨年と大きな変化はなかったが、今後も内容の充実に努めるとともに、教職員全体で地域や自然や社会との関わりを考えていく必要がある。

V 研修と研究について

		A評価	B評価	C評価	D評価
研修・研究への 意欲・態度	研修会や研究会には自己の課題をもって参加する	16.0%	52.0%	16.0%	16.0%
	自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	6.9%	58.6%	31.0%	3.4%

「研修・研究への意欲・態度」の項目では、「研修会や研究会には自己の課題をもって参加しているか」の問いに「C評価」と「D評価」と答えた者が32%となった。資質の向上のため、本年度の園内研修・園外研修の機会は、これまでの3倍以上となったが、本年度から全ての教職員がこの設問に回答する中で、職種による違いが鮮明となった。今後も、引き続き研修会・研究会に参加する機会の確保とその体制作りに努めていくとともに、職種に応じそれぞれが意欲的に参加できる時間で設定する必要がある。

「自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談しているか」の問いには、「C評価」と「D評価」と答えた者が34.4%となった。教職員が親睦を深める機会を増やし、何でも相談できる雰囲気作りと教職員間の相談体制の充実に一層努めていく必要がある。

平成30年度 教職員の自己評価について の良かった点及び改善点

I 保育の計画性

園の教育方針等の理解

- ・今以上に園の教育方針や指導要領に対する知識を深めながら計画を立てたり、保育や環境構成についてもこれまで以上のことができるよう考えていきたい。

教育課程の編成

- ・今年度から職員の入れ替わりもあり、方針もずいぶん変わったように思うが、保育計画において学年および園全体での話し合いや共通理解が十分になく、戸惑う事が多かった。年度初めにもう少し打合せが必要だったのではないか。
- ・子どもの成長や発達に合わせながら、保育の計画を立てることができた。また、4月から環境の改善や玩具の設置などを行い、子どもの興味や発達にあった環境設定を行うことができた。
- ・子ども達が日々楽しい雰囲気の中で、自ら好きな遊びを選んで行えるよう配慮していくよう心掛けた。行事前になると、練習が中心になってしまう日が多くあったため、今後は行事の練習を行う中でも、子ども達が自ら好きな遊びを選んで過ごす時間を確保していけるよう計画していきたい。
- ・保育者間で相談しながら、活動内容を計画できた。週交替、日替わり等で役割を交替していくと良いのではないか。

指導計画の作成

- ・行事を実施するまでの計画において、全体を見通す事ができず、最終的に子どもに負担を掛けることになってしまった。全体を見通せた計画になるよう、保育者が話し合うべきであった。
- ・子ども達への関わり方が変わったことで、子ども達が自ら考える力を持ち、行動する姿が見られるようになってきた。子ども同士が遊びの中からアイデアを出し合い、一つの遊びを行う姿が見られ、友達との会話が増えたり仲間意識が出たり、繋がりを大切に作る姿に成長を感じた。しかし、一方で子どもの主体性について保護者に上手く伝えきれていないところもある。子ども達が、好き勝手に生活するのではなく、自らの力で考える事の大切さを、もっと発信していかなくてならないと感じる。
- ・指導計画の様式が変わったことで、より具体的に見通しをもった計画ができた。
- ・子ども達が主体的に活動できるような用具や素材などに配慮しながら指導計画を作成した。
- ・週案を立てることにより、その週にやるべき事の準備を前もって行うことができた。複数担任につき、保育者間で活動内容の把握漏れや連携内容の伝達漏れにより準備が忙しくなってしまうこともあったので、自分が計画する際には、クラスが上手く回るよう考え事前に伝えていく。
- ・事前に見通しをもって計画を立てたつもりだが、予想が甘かったり想定外のことも発生した。臨機応変に対応することも必要だが、事前に細部までしっかりと計画することが大切。

環境の構成

- ・自由遊びの中で、子ども達が自ら活動を展開していけるような環境設定ができていないので、3学期はもう少し工夫をしていきたい。
- ・自ら選択した遊びの時間、一斉活動の時間それぞれにおいて、子ども達の様子を見ながら環境設定や活動の進め方を変更したりと、計画を進める中で子どもの様子を見て自分なりに考慮しながら対応できた。これからも、より子ども一人一人の様子を見て、より良い保育を行えるよう計画し実践していきたい。
- ・子ども達が遊びこめる環境を構成する中で、日々変容する子ども達の遊びや思いを考え計画を行った。その中で、保育者が遊びの“仕掛け”をすることで、子ども達同士の関わりが広がり、担当クラスだけでなく他のクラスの友達・保育者とも交流することで、より楽しめるようになったと思う。
- ・環境の構成で、子ども達が自ら活動できるように部屋の配置等工夫した。安全面を考えると思い切ったことはできなかったが、ちょっとした工夫で子ども達の遊びが広がった。

評価・反省

- ・他の保育者と協同して進めていった。
- ・子ども達が自ら活動できるように担当するクラスには実践できたが、学年全体をまとめられなかったことを反省する。
- ・職員会議に出席する機会はほとんどない中で、議事録の配布により内容を知ることができるようになった。また、通常保育からのパイプ役になってもらっている保育者のお陰でとても助かっている。今後、同じ仕事の担当、クラス担任と改善に向けて話し合える時間と場が欲しい。
- ・学年で統一していくことの難しさを感じた。また、計画を立てる際には、早めの対応が余裕をもって計画することに繋がる事を考えさせられた。
- ・制作等の活動内容については、年齢に見合ったものか、学年で話し合いながら自分なりに考え進めてきたが、他学年とのバランスや学年全体での子どもの発達を良く考えていくべきだったと反省する。今後は、他学年との話し合いを進めて行きたい。
- ・計画を立てる職員に任せてばかりになっていたところもあるので、今後は環境設定などに積極的に参加したい。
- ・行事や自ら選んで行う活動等は、これまでのやり方もありやりにくいところが多かったが、少しずつでもより良いと思う方向に変えられるところは努力してきた。年齢に応じた保育と環境設定が課題であり、職員全員が話し合い一つ一つ課題を解決していきたい。
- ・日々の保育記録をしっかりと残せなかったことで、振り返りと反省が十分でないので、今後の課題として努力していく。
- ・自らの保育について、多角的な観点から評価・反省することができよう心掛けていく。
- ・各クラスの主担任からの指示や計画を伺い、連携できていた。
- ・毎日の保育計画について、主担当の職員にその都度確認しながら、臨機応変に対応するよう心掛けた。
 - ・初めて担当する年齢であったため、一人一人の発達段階に合わせた生活リズムや流れをつかむことに精一杯で、思うように進めていけなかった。
- ・自由遊びが充実できるように、いろいろな遊びを考えることが自分自身とても楽しく、子どもの発達や成長、今どんなことに興味を持っているのか等、改めて学ぶ良い機会となった。

II 保育のあり方、幼児への対応について

健康と安全への配慮

- ・短縮保育中の日割りホームクラス利用者のため、他の保育者がいても1クラス38人になった時には、怪我をしないように見守ることが精一杯で子ども一人一人とじっくり関わり、遊びこむことができなかった。1クラス20人前後の時は、じっくりと関わることができ、スキンシップも十分とることができた。短縮保育中の子どもへの関わりを考えると、クラス編成を変える必要がある。
- ・子ども達の安全について、避難訓練のあり方や保育者同士の連携の大切さを痛感した。
- ・子ども達が年齢に応じて、危険を察知する力を付けて欲しいのだが、怪我をさせるのが怖くて一緒に遊びこむことができなくなってしまった。特に戸外遊びでは、遊具一つに一人は保育者が付いていないといけないのではと思うほどである。子どもの遊びに加わりながらも、危険な遊びをしていないか遊具や園庭全体の様子に注意しているのはどの保育者もしていると思うが、怪我が増えてきたことを申し訳なく思っている。
- ・安全への配慮について、これまでも十分気を付けてきたが、近くの職員が見ているだろうと憶測せずに職員同士が声掛けをして連携することを徹底し、今後も気を付けていく。
- ・衛生面にしっかり配慮し、安全面では危険のないよう工夫していた。

幼児理解

- ・日々、子ども達の思いに寄り添い保育をしてきた。その中でも、発達の姿や課題も様々で難しい面もあったが、特別扱いせず遠回りする時もあるけれど、同じ方向・思いになれるよう援助してきた。子ども達一人一人が、“幼稚園が楽しい”と感じるためには、保育者との信頼関係が一番と考え、今後も保育をしていきたい。
- ・個性的な子どもへの対応が大変難しく、個性を重んじると他児への対応が疎かになってしまい、一人でクラスを見守る対応ができなかった、と日々苦悩した。
- ・子ども達それぞれの性格や特徴を捉え、その子に応じた関わり方をしてきた。
- ・春から保育室の環境設定について考え、改善したり工夫したりと取り組んだことはとても大変だったが、その後の子ども達の遊びや姿からすると、取り組んで良かった。日々の保育に追われてしまう中でも、まだまだできることはたくさんあると思うので、今後も継続して取り組んでいきたい。
- ・子ども達の園での様子や体調など気になる事や伝えておきたい事は、良い事もそうでない事も言葉を選びながらお伝えするようにした。また、悩みをもたれている保護者の方からのお話や相談には、自分の子育て経験からできるアドバイスをお話して気持ちに寄り添えるようにしてきた。言葉一つで、伝わり方が異なることがあるので、丁寧な対応を心掛けていく。
- ・特別な配慮が必要な子と共に過ごしているため、スキンシップを求めてくる子の甘えたい気持ちを理解し、なるべく応じるようにしてきたが、バランスを取ることが難しい場面が多々ある。また、甘えたい子の“ずっと自分だけを見ていて欲しい”という欲求が強く他の子と関わる事を阻止するので、両者の気持ちを十分に満たしてあげる事の難しさを感じる。

指導との関わり

- ・子ども一人一人の様子をしっかり見ることを心掛けて保育を行ったが、自分自身に余裕が無いときには適切な対応が取れなかったことがあり反省する。自分自身にゆとりをもって、子ども達に対応したり関わることを心掛けていきたい。

- ・縦割り保育1クラス26名～27名の人数では、時間に追われこなすことに精一杯で、子ども達と対話も思うに任せず待たせてしまうことが多々あった。自分が笑っていない事にも気づき、こんな事ではいけないと思った。できることなら、1クラス20名程度になると余裕をもって子ども達に関われると思う。
- ・子ども達と同じ目線に立って環境を設定することで、自由遊びを充実させることができた。また、クラス全体として挑戦しようという気持ちを育てることができたと思う。遊びの中でトラブルが起こることも多々あったが、子ども達同士で解決できるようになって来たことがよかった。
- ・子ども達が、毎日元気に登園し、「幼稚園が好き」と言ってくれる姿が一番嬉しい。進級当初に比べ、子ども達の笑顔が多く見られ、友達の遊びが広がり、クラス内だけでなく学年・園全体で遊んでいる姿は良かった。しかし、まだまだ自分の思いや困っていることを保育者に上手く伝えられない子がいる。もっと子ども一人一人に寄り添い、きめ細かな援助や対応をしていく必要がある。
- ・子ども同士のトラブルなどに特に気を配っていた。クラス内での出来事や怪我などについても保育者間で共有し、共通理解を図ることができた。しかし、特に注意してみたい子が多く、子ども同士のトラブルに対応しきれないこともあったため、今後はより注意して子どもの様子に目を配りたい。また、子どもの気持ちや意見にもっと耳を傾け、子どもの思いに寄り添えるよう心掛けたい。
- ・子ども達一人一人の姿を把握していく中で、良いところを認めたり発達に応じた援助や声掛けを行えるよう心掛けた。遊びが発展するように、子どもの遊びと一緒に参加していたが、時折怪我をしてしまう子もいたので、危険のないよう考慮していく。
- ・子ども達の健康面・安全面に気を配り、子ども達が楽しいと思えるように温かく接するよう心掛けた。子ども達の笑顔が多いクラスになれたと思う。
- ・子ども一人一人に合った関わりや言葉がけをして、その子の良さを認め発達に応じた保育を心掛けた。
- ・子ども達のトラブルに対して適切な援助をするよう心掛けた。
- ・子ども達と一緒に遊び方を考え楽しく遊べた。子ども一人一人に対応した援助にまだまだ改善の余地を感じる。
- ・子ども一人一人を大切に、その子の成長や状況に合った関わり方ができるよう心掛けている。子ども達と関わる時間が短い分、子ども達の話に耳を傾け、思いに共感し、スキンシップを大切にしながら信頼関係を深める努力をしていきたい。
- ・子ども達の思いや考えに共感しながら寄り添って生活したり、子ども同士のトラブルには両者の話を聞いて、その場で解決できるよう取り組んだ。今後、子ども達の遊びの中に入り、さらに生き生きとした遊びが広がるよう関わっていきたい。
- ・子ども達一人一人の気持ちに寄り添いながら楽しく保育ができた。かみつきや怪我の無いよう、子ども達にしっかり関わる保育をしていきたい。保育者が、子どもと向き合い一緒に遊ぶことで、おのずとかみつきは少なくなると思う。
- ・子ども達の目線に立ち、落ち着いて話を聞くよう心掛けた。子どもの気持ちを理解するには、真正面から向き合うことが大切だと改めて実感した。
- ・担当クラスが少人数であったことから、一人一人としっかり関わる事ができた。

保育者同士の協力・連携

- ・職員同士の連携がしっかり取れていなかったことを反省する。話し合いはしても気持ちがバラバラであったように思う。

- ・保育の内容を、この一年で変えたため、現場にいるものとしては混乱ばかりだった。全員でよく話し合い理解する間もなく一年が始まり、子ども達にかわいそうな思いをさせてしまったところもあると思う。少しずつ、内容を見直していても良いのではないか。
- ・個々に対応することが必要と思われる子が多いクラスにつき、保育者同士でどのように対応していくかを話し合い共通理解できたところは良かった。他の職員の保育の様子も見ながら、より良い保育に繋げていきたい。また、担当クラス以外の子ども達とも関わることも多くできて良かった。
- ・子ども達の成長や課題を担当者で話し合い共有するよう心掛けた。その中で、自分の気付かない事などを知ることができた。もう少し、視野を広く見られるよう心掛ける。
- ・担当するクラスに関係なく情報を共有しており、保育者同士の共通理解ができていた。
- ・子どもを中心にした保育、子どもの発想や意見を大切にしている職員が多く、自分自身も、まず子どもにとって何が一番良いのかを考えて保育をしている。職員全体で子どもの成長を喜んでいけるよう、また話していけるような現場の雰囲気作りが必要だと思う。
- ・自分の保育の信念は曲げない中で日々学ぶ事は忘れず、保育のあり方、保育者としてどうすべきなのかを考え努力してきた。子ども達が主体的に活動できるよう、何がベストなのか保育者同士で話し合うよう心掛けた。
- ・子どもの心に寄り添い、発達に応じた言葉掛けを心掛けた。スキンシップを十分に取った遊びを子ども達と共に楽しむことができた。クラスに関係なく子どもと接することにより、全園児の成長を保育者同士、喜び合えた。登降園の忙しい時間、自分の余裕がなくなり安全に見守るだけの保育になりがちだった。心に余裕をもって保育が行えるようスキルアップをして、自身の心を大きくしていきたい。
- ・フリー担当者の増員により余裕が生まれ、子ども達への声かけ等に気を付け、ゆったりと保育ができた。

Ⅲ 保護者への対応について

情報の発進と受信

- ・自分が担当していない午前中に起こった出来事を保護者に伝える時に詳しいことが伝えられず、保護者の方に心配をかけてしまった。担当の保育者から、当日が無理な場合には翌日でも直接報告してもらうことが一番良いのではないか。
- ・保護者とコミュニケーションをとるため、子ども達の様子を知らせていくことを今年度の目標とし、涙する事が多かった子の様子、怪我をした子等には安心して子どもを預けて頂けるよう、適宜連絡を行う事を心掛けた。一方で、笑顔で毎日過ごし怪我も少ない子ども、バス通園の子どもの保護者には、園での様子をあまりお伝えできなかったことを反省する。元気に過ごせている事も知らせる機会を増やし、安心してもらえるようにしたい。
- ・子ども達の活動の様子は些細な事でもすごいなと思ったことは保護者の方に伝えるようにしていた。子どもの名前を間違ってしまった事があり、今後は気をつけていきたい。
- ・送迎の際に日々お会いする保護者の方とは、よく話し家庭での様子や園での姿を伝え合い、共に喜んだり悩んだりする事ができた。バス通園や遅番で降園する保護者の方とのコミュニケーションの取り方に難しさを感じた。連絡ノートなどを利用し少しでも多くの情報を伝えたいと思っていたが、日々の保育に追われてできていないのが現状だった。今後は連絡ノートの活用だけでなく、メールなども利用しながら保護者の方とのコミュニケーションを大切にしていきたい。
- ・園内で発生した怪我やトラブルなどを伝えるよう心掛けたが、子どもの一日の姿を伝えられていないことに気付いた。怪我などは必ず伝えるが、それ以外の出来事や子どもの様子をできるだけ伝えていきたい。

- ・保護者の方は、子ども達の園での様子をとてもお知りになりたいようです。毎日の送迎がある方には、その都度やちょっとしたエピソードをお話できるが、バス通園のご家庭にはなかなかお伝えできない。連絡ノートを活用し、園での様子をお伝えするように心掛けてきた。
- ・保護者一人一人と連絡を密に取り、一緒に子どもを育てることを心掛けた。その中で、バス通園のご家庭とは普段なかなか話ができないので、どうしても毎日顔を合わせる保護者より差ができてしまうように感じる。連絡ノートをしっかり活用して、差を縮めていきたい。
- ・特に大切な件や怪我の際には、保護者の方が疑問や不安を感じる事の無いよう、連絡ノートではなく直接口頭で報告することを徹底したい。
- ・担当する子ども達から十分に伝えられない年齢なので、園での様子をお家の方へもっと伝えていけばよかった。
- ・保護者の方が不安な気持ちにならないよう、コミュニケーションを多くとるよう心掛けた。祖父・祖母の送迎、早朝から夕刻までお預かりするご家庭の保護者の方には直接お話しする事が難しいこともあったが、ノートを活用して連絡を取るよう心掛けた。

対応上の心がまえ

- ・保護者対応については、丁寧に行ってきたつもりではあるが、安心して気持ち良く通っていただけるよう、今後も心掛けたい。
- ・保護者の方の思いに寄り添うことを大切にしてきたつもりでしたが、なかなか難しい…ですね。バス通園の保護者の方とはなかなかお会いする機会が無いので、今後特にきめ細かな対応をしていきたい。
- ・連絡ノートを通して日頃の子ども達の姿をお知らせしたり、お迎えの際に時間の許す方には直接お話ししたり、電話で伝えたりして対応してきた。保護者の方の不安は、子ども達への不安へと繋がるので真摯に対応してきたし今後も継続していく。苦情やご要望については、担当クラスの事でなくもしっかりと把握し、曖昧に答えることのないように対応していく。
- ・送迎時に子どもの様子をお伝えする事で、保護者の方に安心していただけるよう心掛けた。信頼関係を築けるよう、子どもにも保護者にも温かい気持ちで接した。気になることがあっても普段ゆっくりとお話できなかった方とも、学期末の懇談で個別に話ができて良かった。
- ・保護者の方に子どもの様子をわかりやすく伝えた。保護者からの連絡などについては、メモを取りきちんと対応した。
- ・担当する時間内に発生したことは、保護者の方にできるだけ詳細にお伝えし信頼関係を構築するよう心掛けた。クラス内で発生したことは、それぞれ担当者からお伝えすべき。
- ・子ども達の園での様子を保護者の方に伝える事ができた。なかなかゆっくりとお話できない方も見えるので、話ができる際には、その時間を大切にしていきたい。担当クラス以外の保護者の方と話す機会も多くあったので、普段から他のクラスの様子を聞きながら対応していきたい。
- ・保護者から相談や要望、苦情などを直接受けることはないが、登降園時の挨拶やちょっとした会話の中でも保護者の方とのコミュニケーションを深めたり、信頼関係を築く事はできると思うので、自分なりにできる事から実践していく。
- ・年度当初は、緊張でどのような対応をすれば良いか分からず不安でいっぱいだったが、慣れるに従い徐々に子ども達や保護者の方と笑顔で元気良く挨拶できるようになった。朝の登園時に保護者との対応で、まだ難しい時があるので、いろいろ話せるようになっていきたい。

- ・保護者の方と直接接する機会は少ないが、保護者の方の様子や言葉には一つ一つ丁寧に対応してきた。
- ・子ども達の4月からの成長を、保護者の方と共に喜び合う事ができた。園で困った時に、保護者の方と情報交換することで対応することができた。逆に、怪我や病気等の心配からお話したことで保護者の方の不安を煽るような感じになってしまったのではないかと、とても反省することもあった。自分自身の経験はあっても、あまり根拠のないことは言わないようにする。
- ・勤務の都合上、全ての保護者の方と顔を合わせることはないが、朝の出会い時、お迎え時には、どなたにも挨拶を始め何がしか必ず声を掛けさせてもらっている。担当クラスの保護者の方には、子ども達のその日の様子や体調は必ず伝えるよう心掛けた。
- ・共に子ども達の成長を喜び合い、保護者の方の不安や悩みは一緒に考え、信頼関係を築いていけるよう努力していきたい。

要望への処理の仕方

- ・保護者の方から、子育ての悩み相談を受けたとき、自分自身の経験不足から適切に答えられなかったように思う。信頼を得るためにも成長するの必要を感じた。
- ・保護者の方からの質問やご意見については、保育者間で共有し共通の理解をもつことができた。また、クラス以外の保護者の方とも子どもについて話すなど関わりをもつことができた。しかし、行事や園に関する質問を受けた際に、自分自身が理解できておらずすぐに返答することができなかった。今年度の経験を活かして、来年度以降は迅速な対応ができるようにしたい。
- ・保護者の方からの要望・依頼・伝言について、職員間の報告・連絡が以前より円滑になった。
- ・保護者の方と話がし易い雰囲気作りをしている。保育者同士も連携して保護者対応ができています。
- ・登降園時に積極的に言葉を掛けることでコミュニケーションをとることができた。伝達と共通理解に複数担任ならではの難しさを感じたため、今後の課題として努力したい。
- ・小さなことでもなるべく子ども達一人一人の様子を連絡ノートや口頭でも保護者の方にお伝えしていく事を心掛けた。保護者の方から方針が変わったことへの不安、これからの事に対しての不安をお聞きした際に答えに困ることがあったので、職員間の共通理解を深めていきたい。

IV 地域や自然や社会との関わり

地域・自然・人々との関わり

- ・地域の主な施設については、公園等は把握しているつもりだが、その他のものは全くといって良いほど理解できていない。地域の行事や小学校に関しても同じ状態である。共に子どもを育てる場として、子育て支援を含め意識をもって取り組んだり関わったりしなくてはいけないと反省している。
- ・あまり機会を作れなかったので、学期に一度は園外に出掛けて行きたい。
- ・未就園児のびよびよクラブの親子とたくさん関わることができた。散歩や園外保育では、公園など様々な場所で地域の方たちや自然と触れ合うことができた。園外に出掛ける際には、早め早めに現場を確認し、危険な箇所を調べておく。
- ・花育や芋のつるさしや芋掘りのお手伝い、豊が丘小学校1年生・高野尾幼稚園との交流会など、これまでたくさん関わる機会があった。芋のリース作りは大変だったが、お手伝いいただいた保護者の方と一緒に作り上げ達成感を味わうことができた。

- ・小学校や地域の方との関わりがなかなかもてないが、花育を通して協力をお願いし、触れ合うことができた。
- ・直接、地域の方と接する機会は少なかったが、地域の方々から見て園の職員として恥ずかしくない対応や挨拶を心掛けた。学年によっては、園外の方との関わりが増えると思うので、その都度学んでいきたい。
- ・散歩に出かけることで、近隣の公園に行ったり自然と多く関わることもできた。
- ・園庭開放でしか、地域の方と関わる機会がなかったので、その機会を大切にしていきたい。花育で子ども達が地域の方に教わりながら花を植える姿は、とても楽しんでおりよい機会だった。
- ・園庭に植物がたくさんあり、自然に子ども達が積極的に関わることもできた。
- ・地域のことに目を向ける余裕がなかった。もう少し意識して地域にも関心をもっていくことが課題。
- ・園庭開放に参加していることもあり、地域の方と交流することができたと思う。また、散歩に出かけた時に地域の方と挨拶したり、花育を通して交流したり子ども達は楽しめたと思う。
- ・身近な自然の中で、草花・木の実・木の葉などに触れ、子ども達が季節を感じることもできた。
- ・秋には、どんぐり拾いに行き、拾ったもので制作したり、おいも掘りを楽しんだり自然とのふれあいを大事にできたように思う。
- ・自分が子育て真っ最中につき、社会との関わりは密に取れているように思うが、もっと情報を得ていきたい。
- ・お散歩の機会を多くもつことで、季節を感じ楽しむことができた。園外に出掛ける際には、担任に加えて一人フリーの職員が入るとトラブル発生時にも安心。
- ・自然に囲まれ恵まれた環境の中にあるということが、とても幸せなことだと実感する。
- ・園庭のどんぐりや落ち葉を拾う事を子ども達と一緒に楽しんだが、それを基に更に発展させていく事があまりできず反省している。その時期にしかない機会をもっと大切にしたい。

V 研修と研究について

研修・研究への意欲・態度

- ・園内研修では、保育の課題についてグループ討議で自分なりの考えや提案をもって保育者間で話し合い意見を出し合うことができた。園外研修では、講師や他園の保育者の話を聞き、様々な考え方や様々な保育の方法があることを学べた。自分なりに良いと思うことをたくさん吸収し、より良い保育を行うことに繋げていきたい。
- ・研修、会議に直接参加できないときでも、報告を書面で受けていることは、よくわかってよい。
- ・未熟な自分にとって、研修は必須で大切である。機会があれば積極的に参加したい。
- ・今年度、全幼研やその他の研修に参加し、自らの保育について考えたり学べたりすることができた事に感謝している。日々の保育や生活の中では、子どもに対する思いや援助などが話題に出ても忙しくて考えられないことがある。研修では、グループ討議や講演を聴く中で振り返り、自ら考えたり反省することができた。今後も、研修でたくさんのことを学んで生きたい。
- ・園外の研修会に参加し、保育の実践を観察し意見交換をすることができた。そのことにより、疑問に思ったことや同じ悩みをもっている保育者同士が話し合え、これまで以上に保育者のあり方や関わり方を理解できたし、自らの課題がみえてきた。
- ・新採研修にたくさん参加でき、他園の保育者に悩みを相談したりアドバイスを受けて、とても有意義であった。公開保育にも何度も参加でき、保育や環境構成について多くを学ぶことができた。今後の研修においては、これまでの研修を活かし、課題や自分の意見をもって参加したい。
- ・研修を通して、子どもの様子を見て一人一人に対する声の掛け方やタイミング、接し方などを考慮する大切さを改

めて学んだ。自分なりに考え実践したり、他の保育者に相談して保育をしていきたい。

- ・これまでの研修会、ミーティングには課題をもって参加できたし、そのような時間を設定してもらったことに感謝している。
- ・全幼研の研究発表や公開保育、各種研修でいろいろな話を聞かせてもらう事ができ良かった。今後も研修を重ね、スキルアップできるように頑張っていきたい。
- ・研修に参加することで、日頃の保育を反省したり、今後の保育に役立つ事を学べた。
- ・自身の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や管理職に相談することができなかったので、今後は、保育者として向上していくため相談していきたい。
- ・園内に外部から講師が来ていただき研修できたことは良かった。今後も自己研鑽に努めていく。
- ・研修会や公開保育などに積極的に参加できた。今後も様々な研修に参加し、自らの保育について見つめ直す機会としたい。
- ・研修会での話し合いが消化不良に終わることも多く、もう少し時間が欲しいと感じた。なかなか参加できなかったのも、今後はもっと参加できるよう調整したい。
- ・園内研修の時間が長くなってしまいう事があり、家庭のある立場から参加に少し戸惑う時があった。しかし、研修内容には、とても興味深いものがあり参加して良かった。
- ・研修を受けた職員から、話を聞き自身のスキルアップに繋げている。
- ・様々な研修会に参加する機会があるものの、家庭の事情で週末の研修に参加できないことが残念。
- ・これからの保育について理解しつつも、現状難しいところがあり、何が良いのか分からなくなることも多々あった。様々な研修を受ける中で、他園での話を聞いた時には、同じような思いや悩み、解決に向けてどの園も試行錯誤しているのを感じ、自分自身も前向きに考えていく気持ちを持つとうと感じることがあった。
- ・午睡の時間に研修・会議が設定されることで、担任同士の話し合いの場が減少するため、回数や時間帯を考慮して欲しい。幼稚園舎・保育園舎の職員同士が顔を合わせる機会が多くあった事は良かった。

保育のあり方や悩みについての相談

- ・経験のある職員から教えてもらったり、支援センターの先生からの助言を教えてもらったりして、ありがたい。手探り状態の中で、専門知識を持つ職員からいろいろと学びたいが、お互いに時間的余裕がない。
- ・自分の中に溜め込まず、もっと周りの職員と相談していけばよい事は理解しているのだが、立場上どこまで自分で消化すべきなのか葛藤がある。今後、もっとお互いが相談するとともに管理職とも相談しながら進めていきたい。
- ・職員それぞれの保育観を、もう少し早い段階から出し合って深く話し合う必要があった。